

第4回看護研究会

(管理者研修会)

● 日時 平成29年12月7日(木)

10時～16時05分

● 会場 岡山県医師会館

● 出席者 77病院276名・委員13名

講演

JALフィロソフィ

JAL再建の礎―心の改革



講師

日本航空(株)岡山支店

門屋秀臣 支店長

1. JAL破綻の原因について
 - ・採算意識の不足
 - ・拡大主義・多額の年金債務
 - ・高コスト構造
 - ・財務的な経営規律の欠如
 - ・目標の共有・一体感・社員の採算意識・危機感の欠如
2. JAL再生に必要な社内改革について
 - (1)意識改革(こころ)
 - ①自社の文化は自社でつくる
 - ②リーダーから変える
 - ③全社員に一体感を持たせる
 - ④現場のモチベーションを少しでも高める
 - ⑤変化を起し続けることで本気度を示す
 - ⑥スピード感を重視する

この中でも、リーダーの人格を高め、意識を変えることが最も重要である。

再建の先頭に立つてほしいリーダーに必要な6つの要諦。①謙虚さ

②勇気 ③素直さ ④努力 ⑤夢

⑥感謝

(2)会計制度改革

・部門別採算制度の導入

・決算の迅速化

3. JALフィロソフィ

JALフィロソフィとは全社員共通の考え方・価値観であり、行動指針となる。

第1部…すばらしい人生を送るために

第1章 成功方程式

人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力

考え方＝プラス思考にしないと

熱意・能力があってもマイナスになる。

第2章 人間として正しい考え方をもち

美しい心＝利他の心＝他人を思いやる＝判断基準にする

第3章 熱意を持って地味な努力を続ける

第4章 熱意を持って地味な努力を続ける

第5章 熱意を持って地味な努力を続ける

第6章 熱意を持って地味な努力を続ける

第7章 熱意を持って地味な努力を続ける

第8章 熱意を持って地味な努力を続ける

第9章 熱意を持って地味な努力を続ける

第10章 熱意を持って地味な努力を続ける

第11章 熱意を持って地味な努力を続ける

第12章 熱意を持って地味な努力を続ける

第13章 熱意を持って地味な努力を続ける

第14章 熱意を持って地味な努力を続ける

第15章 熱意を持って地味な努力を続ける

第16章 熱意を持って地味な努力を続ける

第17章 熱意を持って地味な努力を続ける

第18章 熱意を持って地味な努力を続ける

第19章 熱意を持って地味な努力を続ける

第20章 熱意を持って地味な努力を続ける

第21章 熱意を持って地味な努力を続ける

第22章 熱意を持って地味な努力を続ける

第23章 熱意を持って地味な努力を続ける

第24章 熱意を持って地味な努力を続ける

講演 2018年同時改定の方向性と病床再編の行方



講師

(株)ASK 梓診療報酬研究所

中林 梓 所長 代表取締役

今回の診療報酬・介護報酬同時改定は、①地域包括ケアシステムの構築と医療・介護の連携強化 ②効率的な医療提供体制の構築 ③高齢者の自立支援等、2025年に向けた医療・介護の提供体制の整備を推進していくための重要な改定である。

精神疾患の医療体制は、精神障害にも対応できる地域包括ケアシステムにも対応できる地域包括ケアシステムの構築、また多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向けて医療機能を明確化する。

一般病棟入院基本料に係る論点は、重症度、医療・看護必要度の項目の見直し、DPCデータの活用、一般病棟入院基本料の評価手法の見直しである。

特定集中治療室管理料に係る論点は、重症度、医療・看護必要度の測定、特定集中治療室管理料について入室時の患者の生理学的スコアの記載、早期離床取り組みの評価、重症患者のケア研修を受けた看護師配

置、治療室に備えるべき器具・装置についての共有などである。

地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料に係る論点は、「救急・在宅等支援病床初期加算」について診療実績を踏まえた評価で区別、届出要件において訪問系サービスの提供も検討、地域包括ケアシステム(入院院支援)の構築により貢献できるサービスの実績も加味した評価などである。

慢性期の病棟において新たなデータ提出項目は、摂食・嚥下機能障害の有無、低栄養の有無、要介護度の認知症高齢者の日常生活自立度である。また現行の介護療養病床の経過措置期間を6年延長し、介護保険施設「介護医療院」が創設される。

DPCでは基礎係数(医療機関群)の名称が再整理され、機能評価係数IIのあり方の再整理、保険診療係数の見直し、調整係数の置き換えが完了する。

今後、高齢化・認知症発症・廃用症候群・単独世帯老老世帯が増加している。医療の重点が移動してきている。自院の診療圏では、どの分野の医療介護を担うのか、地域の医療介護ニーズを正確に捉えることが最重要である。

(看護研究委員 岡竹しのぶ)